

## 阿部堰地区の環境公共（西北地域県民局の巻 その23）

- あべ君** 五所川原市立松島小学校の5年生30人が、長靴を履いてどこへ行くの？  
**おべ様** これから五所川原市の農家・福士さんの田んぼへ行って、田植えをするんだよ。  
阿部堰地区環境公共推進協議会では、農林水産業が支える自然・景観・文化を保全して児童たちに伝えることで、新たな「結い」を実現したいと考えているんだ。  
そのためには、まずは農業生産や農産物販売の現場を知ることが大事なので、児童たちに「田植え、稲刈り、米の販売」を実際に体験してもらおうだよ。  
**あべ君** 児童たちにとっては、よい経験になるだろうね。地域の活性化にも繋がるし、「結い」を絶やさない取り組みにもなるね。

### ① さあ、田植えがスタートしました。

- おべ様** 「子供は風の子、泥の子」と昔から言われているだけあって、みんな田んぼに入れば楽しそうでしょ？  
大人でも田んぼの泥で、跳ねたり、飛んだり、投げたりするのは楽しいからね。  
**あべ君** あれ、田植えをした児童たちが、用水路に入ったみたいだよ。どうしたのかな？  
**おべ様** 用水路は田んぼへ水を届けるだけじゃなくて、泥まみれの「くつ」「農具」「手足」を洗う場所でもあるんだよ。  
**あべ君** 冷たくないのかな？  
**おべ様** 児童たちの顔を見てごらん。少しくらい冷たくても、元気で楽しそうな顔をしているよ。

### ② 続きまして、稲刈りがスタートしました。

- あべ君** 稲の刈り取りは、コンバインで行うのかな？  
**おべ様** 昔からの「カマ」を使って、みんなで1株ごとに刈り取りをするよ。  
**あべ君** 危なくないのかな？  
**おべ様** 周りに大人たちがいて、「カマ」の正しい使い方を教えてくれるから大丈夫だよ。でも、危ないから「刃」の部分は絶対に人に向けてはいけないよ。



田植えの風景(H27.5.21)



用水路で足を洗う児童たち(H27.5.21)

③ いよいよ、米の販売がスタートしました。

あべ君 どこで、どうやって販売するのかな？

おべ様 JA ごしょつがるの農産物直売所「まるっと新鮮館」で販売するよ。

児童たちは、米が全部売れるように次のような準備と工夫をしたんだよ。

ア 無地の袋に、児童一人一人のお米への想いを込めた絵を描く。(品種は「まっしぐら」)

イ 「幟」を手作りして、駐車場から大きな声でお客さんをお呼び込む。(幟のデザインにも児童たちの独創的なアイデアが織り込まれていて、広告としての効果は絶大！)

児童たちが販売する米には、青森県産の特 A 米「青天の霹靂」にちなんだ「松小の霹靂」など独自の名前が付けられているよ。青森県の PR 効果もあったのかな？

あべ君 販売価格は、どうして 2Kg で 480 円なの？1 コインの 500 円にすれば、会計が簡単になったんじゃないかな？

おべ様 販売だけじゃなくて、算数の勉強を兼ねているから、端数のある単価にしたんだよ。

あべ君 あ、たった 1 時間半で 30 袋が完売したみたいだよ。最後の 1 袋を購入したお姉さんが、児童たち全員から「お買い上げありがとうございました！」って大きな声をかけられて、少し恥ずかしそうだね。

おべ様 環太平洋パートナーシップ (TPP) 協定の影響で、本県農業を取り巻く情勢は厳しいけれど、将来、この児童たちの中から五所川原市の担い手農家が出て、世界と競争できる農業ができればいいね。



「カマ」を使った稲刈りの風景 (H27.9.24)



JA まるっと新鮮館での販売風景 (H27.10.22)



児童たちの思いを描いた米袋 (H27.10.22)



「幟」でお客さんをお呼び込む児童たち (H27.10.22)



自由な発想で作られた「幟」 (H27.10.22)

「環境公共」ホームページ : <http://www.pref.aomori.lg.jp/sangyo/agri/kankyokoukyou.html>